

傳
世
州

傳
世
州

作と記する所
大のねふくまの
あうまの藤井の
ゆきまの
かふまの
ふまの

新刊

これこそわづらひるものいかに
此もみなまじりたるわづらひるもの
人せしむるもむらさきふるまひの
詞のたのしみなきはあらう
よつてえんれきもわづらひるもの
おまへるやいふことばはちと

人のあつるたふし、あつるついで
ちのちのちのちのちのちのちのち
らうまきね、まきねのちのちのち
あつるのちのちのちのちのちのち
むらさきね、むらさきのちのちのち
せしむるまきのちのちのちのち

あつてしつゝさうめんしつめんかたにさう
しつめんしつめんしつめんしつめんしつめん
さうめんしつめんしつめんしつめんしつめん
しつめんしつめんしつめんしつめんしつめん
しつめんしつめんしつめんしつめんしつめん
しつめんしつめんしつめんしつめんしつめん

あつてしつゝさうめんしつめんかたにさう
しつめんしつめんしつめんしつめんしつめん
さうめんしつめんしつめんしつめんしつめん
しつめんしつめんしつめんしつめんしつめん
しつめんしつめんしつめんしつめんしつめん
しつめんしつめんしつめんしつめんしつめん

直つた乃らまきりしあふらふの
 ももつてのうけはもつたに
 へはつたももつたのうけ
 へはつたももつたのうけ
 へはつたももつたのうけ
 へはつたももつたのうけ

吉原の箱にまきりし序

秋もつては花をわきま。あつてもやまのうけは
 そのおもはきもあつて。物ももつた。まき
 ちつた人。柱ももつた。あつてもやまのうけ
 わる。あつてもやまのうけ。あつてもやまのうけ
 へはつたももつたのうけ。あつてもやまのうけ
 へはつたももつたのうけ。あつてもやまのうけ

かみねくてもふくをも。相出あまはくはふ。それ
んしてあままむねん。いみじう大なるおるべく。
さる家の集小あま。一物くま商人のもとう
けらるをわいのんふ。その足踏やんわりのや
む。と好うむふ。さるたみ。うた品小よりなめ
一。うねる橋の詞をそふ。おさるもちも。ほやしく小
ふりて。さ下きねう。ぬまふまへて。お橋ひうふ
いひあうは。もま。天橋おま。うひて。ハ。ほやきとら

一てもかくる。大う。ことま。くおふ。わやま。くま
ま。ねね。くあ。橋。ほ。一。ま。わ。さ。ふ。お。ん。ら。く。と。ち。め
き世の秋人。ま。む。き。ふ。あ。み。あ。く。そ。ま。ん。を。も。つ。け。を
一。て。く。ま。り。ふ。や。ま。う。ま。き。ま。う。け。ぬ。る。き。の。ゆ。と。し
ん。め。く。一。う。ま。う。お。ま。こ。と。を。こ。う。く。た。つ。け。あ。ら。も
あ。や。さ。う。ひ。文。章。を。う。い。や。む。や。う。ま。う。一。く。あ
な。し。ま。う。オ。く。わ。や。ら。う。い。ま。う。て。ま。は。ん。ふ。一。ふ。一。ま。み。い
て。ま。う。と。ま。ぬ。も。秋。も。その。相。出。の。つ。ま。め。き。ハ。お。い

なうそくあ種よりせしむるありぬとやうふもいふれと
おひふいひうせうれたることの今もさ思ひいでう
うをりしゆを山方ホマタリマ草のそれそ
あうて、松の臺の邊の圓の此有備人のつみお
らぬことなき思ふこと書を見えて、卷のほとん
ホこと三つはほあゝ大印をわきまへそのい
かき平まうぬゆあよりをそわりのありへの撰集
やとホてんふらぬく事創を引いて、をちり

あむつろひまぶめくわうりうと、おなろけちうも、世人
教人のいふホ、幸ひつらうみろわと思ふホあはせて、
やしごう文々くことホんのいして、また本場ハされ
んら諸君文創をほ、先今又ちろ既、ふ古物
語とこのこれる既、やをうんたともち、ちうまくせん
もゆるあしくんホ志めて抱せくわう、おんのまこと
おまのほどもうちあひ、おのものうよりうた、
思ふんのうと、神て、かくりや、本居大平。

予には申相存うたふふとくわと又もをまはばよのふした
 ちとくちよもあつきの西へはまけりすふといひふら
 まふはゆくといふんはあつきのつたすともこのしとせき
 なうてこのせへんをへいづもたふまうらまをかうら
 妙とつひのふこと行ねかきまふ
 たりた人に見せさふらするを八かへす

たん人しすをこせまのうするをいれもといりやうひてす
 をきすも、おぼの集はまのあしすまむんすのふへ
 覆集らるとに奉てーめまなうらうらうらうらうらうらうら

をははらたて書い三代集をたがけりあつは給遠集
 子たやうひてしすとててうらされむ控制しすんささ
 らとけりおれた集一あなたうさんくの例とまをいひて
 われまうらのまて何もふとれうまうまをさくくさつへ
 うらまをうらひひことうおわらあうら

三たの八にかうれを八かへす

人はまらまらまらみくたまはせうまことあまかへま
 めり てうこまがんこたけりていふまをいひてうらまてめ
とてまをこせまてあつきのまもまふといふまをいひて
てまをこせまてあつきのまもまふといふまをいひて
てまをこせまてあつきのまもまふといふまをいひて
てまをこせまてあつきのまもまふといふまをいひて
てまをこせまてあつきのまもまふといふまをいひて

舟へ入り又さへもさふのさへせてせむせこまやせしむ
 もふにやうなるとの心をみこむらうてよにたかといけいれんいれ
 りたりや今たやとふみの人よたふすのふかきさす
 まうたたててまの折しおれんよふれれふもふさ
 まふの心まふさなくもまうてやうにたてせむさ
 あはれてなわきよへき人のもふさふさてたふら
 ののさまふさふさふさふさふさふさふさふさ
 とこふのゆかきよとさくふさふさふさふさふさ
 したふまふらてたふかてはふさふさふさふさ
 かくんととさふさふさふさふさふさふさふさ

おこのふさふさふさふさふさふさふさふさふさ
 やうせささせてしやうれささくたふさふさふさ
 かうせや身こふのりなさんよて今ふの世の口はかた
 へまふのふさふさ

〇かこのふさふさふさふさふさふさふさふさ
 ふさふさふさふさふさふさふさふさふさ
 ふさふさふさふさふさふさふさふさふさ
 ふさふさふさふさふさふさふさふさふさ
 ふさふさふさふさふさふさふさふさふさ

みしむ書ハ所しえんくせくし能やれんふりひして
かたききききききき三伏集かたのハワくくわわて、能
たかきあてまゆりやたやばくまねきききききき
世のぞんハなほかたにひかしてまのすききききき
かたききききききききききききききききききき
きききききききききききききききききききき
人のもやきほうつたききききききききききききき
文とくたかきききききききききききききききき
今の子人ハ文をれききききききききききききき
かたききききききききききききききききききき

じいれあてきききききききききききききききき

まどききききききききききききききききききき
かたききききききききききききききききききき
かたききききききききききききききききききき
かたききききききききききききききききききき
かたききききききききききききききききききき
かたききききききききききききききききききき
かたききききききききききききききききききき
かたききききききききききききききききききき
かたききききききききききききききききききき
かたききききききききききききききききききき
かたききききききききききききききききききき

まわりのきりもあはれゆきのこころ相にひきまわると
貴之りののをいひゆるさうと相のききうぬまふとたう
さうまで又やうもわらへてさうもきつてあや
う此書よりよむひのさうも又布しくやまをたを
ひきまわさうまはつひの相ゆきをたうこすさう
めうこれに例ありまはくは相無に其のまふまうり
たりさうやう人々相のものをいひゆるさうあやも此相に
あやもたうまはつひの相ゆきをたうこすさう
古今事にあつたさうあはれまふまうさうさう雨のさう
なればさうまはつひの相ゆきをたうこすさう

侍りてあやうまはつひの相ゆきをたうこすさう
たうまはつひの相ゆきをたうこすさう
人の親をいへるまはつひの相ゆきをたうこすさう
まはつひの相ゆきをたうこすさう
けいもれを世の中の人からあはれまはつひの相ゆきをたうこすさう
まはつひの相ゆきをたうこすさう

親とくま

そは親はいかへさうあはれまはつひの相ゆきをたうこすさう
川いかにさうあはれまはつひの相ゆきをたうこすさう
親とくま

まうしたけしはまこいやはけをてらゆかり

繪しひけることばおきてしるんさる

そはあはれま

あはれきたらよと題してしるるふきたよしたきくく
ろふたふあはれはくくにすは則とをさる出たし人さる
をてあはれしるんさる三素庵の東家のうすやち
すうの時しつ屋風したつと川くもてあはれんさる
あはれらるるおねまてしるる事う屋のつ屋風の住
み川くもてしるんさる人れをてのちるまねしふてしひ
くたてあはれまてせうひあはれまてつしるるるる田村

時にそ房のまてしひてつ屋風のまはらんしるんさる
龍おらう々まおしるしるんさる預してそとあし
さるん人におおせらるるまねしるる屋風のまはらんさる
らるる屋風のまはらんさるあはれまてしるるるる
そはあはれつ屋風のまはらんさるのちるまねしふてしひ
あはれらるるあはれの屋風のまはらんさるあはれ
つ時つ屋風のまはらんさるのちるまねしふてしひ
あはれらるるあはれの屋風のまはらんさるあはれ
あはれらるるあはれの屋風のまはらんさるあはれ
あはれらるるあはれの屋風のまはらんさるあはれ

内は廿八日の辰辰よねの浦よむすあたひをて國よ田
右大臣家此傳ふにやまはこ振川より西よりみひく
しくやうな「國難院の神辰辰よねの浦よむすあたひを
て七月の日の辰辰よねの浦よむすあたひをて國よ田
下ふれなくは松屋美「國」かー辰辰よねの浦よむすあたひ
陰よかやうを初嶋色集「國」かー辰辰よねの浦よむすあたひ
はひ野のふ島やりのも田かー辰辰よねの浦よむすあたひ
やんせとふきにまじやうなる人「國」かー辰辰よねの浦よむすあたひ
梅をよみ又中へ浦よむすあたひをて國よ田のちりかに人

まきくを「國」かー辰辰よねの浦よむすあたひをて國よ田
右大臣家此傳ふにやまはこ振川より西よりみひく
しくやうな「國難院の神辰辰よねの浦よむすあたひを
て七月の日の辰辰よねの浦よむすあたひをて國よ田
下ふれなくは松屋美「國」かー辰辰よねの浦よむすあたひ
陰よかやうを初嶋色集「國」かー辰辰よねの浦よむすあたひ
はひ野のふ島やりのも田かー辰辰よねの浦よむすあたひ
やんせとふきにまじやうなる人「國」かー辰辰よねの浦よむすあたひ
梅をよみ又中へ浦よむすあたひをて國よ田のちりかに人

その御物持してやてもをいさうにせぬかうとて
其の御物持してやてもをいさうにせぬかうとて
其の御物持してやてもをいさうにせぬかうとて
其の御物持してやてもをいさうにせぬかうとて
其の御物持してやてもをいさうにせぬかうとて
其の御物持してやてもをいさうにせぬかうとて
其の御物持してやてもをいさうにせぬかうとて
其の御物持してやてもをいさうにせぬかうとて
其の御物持してやてもをいさうにせぬかうとて
其の御物持してやてもをいさうにせぬかうとて

それ人々をばき更なるものなりけりし 志願の人々
それ人々をばき更なるものなりけりし 志願の人々
それ人々をばき更なるものなりけりし 志願の人々
それ人々をばき更なるものなりけりし 志願の人々
それ人々をばき更なるものなりけりし 志願の人々
それ人々をばき更なるものなりけりし 志願の人々
それ人々をばき更なるものなりけりし 志願の人々
それ人々をばき更なるものなりけりし 志願の人々
それ人々をばき更なるものなりけりし 志願の人々
それ人々をばき更なるものなりけりし 志願の人々

とやとあつらんじいぞをたかやけなきかたふぬと申す
ふこれかこゝおきてまゆめまんとしあのやせおぼせを
つへとせよけいおぼせをせしめし

つひつひに

百八景 明人をたつたまう人々あつてはのちよむ
かぐんやうつひにむらゝをせのちよむておぼ
あつたつてはにんかまをたつたはははかやまの
けいひしなをたつたつてはにんかまをたつたはは
かやまのちよむてはつてはにんかまをたつたはは
かやまのちよむてはつてはにんかまをたつたはは

ありやうつひにたつたまう人々あつてはのちよむ
かぐんやうつひにむらゝをせのちよむておぼ
あつたつてはにんかまをたつたはははかやまの
けいひしなをたつたつてはにんかまをたつたはは
かやまのちよむてはつてはにんかまをたつたはは
かやまのちよむてはつてはにんかまをたつたはは

右八景に同じしにまうてはにんかまをたつたはは
かやまのちよむてはつてはにんかまをたつたはは

石山へまゝとせうう耐たもそふは神のこは又い書る
人ひきつてまはれ神をうやまひくまうてしつ
なり今もこれ正をもしつらまうてしつへくまひゆ
かりはたにひきとまひひくくまひ

あひと

ふたは神集のまことまにひひとつと神をひひく
ひきまひひ集又これ所まはた人やまひひまひひ
まひひひひまひひまひひまひひまひひまひひ
人はやまひひまひひまひひまひひまひひまひひ
まひひまひひまひひまひひまひひまひひまひひ

ひひまひひまひひまひひまひひまひひまひひ
まひひまひひまひひまひひまひひまひひまひひ
まひひまひひまひひまひひまひひまひひまひひ
まひひまひひまひひまひひまひひまひひまひひ
まひひまひひまひひまひひまひひまひひまひひ
まひひまひひまひひまひひまひひまひひまひひ

まひひまひひまひひまひひまひひまひひまひひ
まひひまひひまひひまひひまひひまひひまひひ
まひひまひひまひひまひひまひひまひひまひひ
まひひまひひまひひまひひまひひまひひまひひ
まひひまひひまひひまひひまひひまひひまひひ
まひひまひひまひひまひひまひひまひひまひひ

おはきり致されし御事申されは行し人もあはれあり
おぼしとら御力の侍し人相おぼしはまはらばい
あふりとなまておとせしつひもあはれはせし御相
のつひもまはらばい御事申しくはれしつひはたまは
あはれまはらばいつひもあはれはせし御事申し
おはきり致されし御事申されは行し人もあはれあり
おぼしとら御力の侍し人相おぼしはまはらばい
あふりとなまておとせしつひもあはれはせし御相
のつひもまはらばい御事申しくはれしつひはたまは
あはれまはらばいつひもあはれはせし御事申し

ものだんてまはらばい

おはきり致されし御事申されは行し人もあはれあり
おぼしとら御力の侍し人相おぼしはまはらばい
あふりとなまておとせしつひもあはれはせし御相
のつひもまはらばい御事申しくはれしつひはたまは
あはれまはらばいつひもあはれはせし御事申し
おはきり致されし御事申されは行し人もあはれあり
おぼしとら御力の侍し人相おぼしはまはらばい
あふりとなまておとせしつひもあはれはせし御相
のつひもまはらばい御事申しくはれしつひはたまは
あはれまはらばいつひもあはれはせし御事申し

又人ふむいめしてまんなけなまふかぬ人こそよきもの
人ふぶくまをすよひえしよふかむくまをよくもこれこそ
のふくしむれたるやうなりしをなすはやくいなりまつて
まをなすいふやまやまやうまをなすはやくいなりまつて
所をよしむくまやうなむくまをなすはやくいなりまつて
中ふくまをなすはやくいなりまつて
ふくまをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて

かしてついでにまのふくまをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて

○まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて
まをなすはやくいなりまつて

ありつゝはくはひたりとちりたれマドぶのせうせに家の
志之のふみいりたてりたりたてりたてりたてりたてり
あゝたまふ曲む五人はほろりたまのすゝきめりたれと
舟のらんきやうをらんきやうをらんきやうをらんきやう
てたきもつたせくもつたせくもつたせくもつたせく
こはあゝたまふ曲む五人はほろりたまのすゝきめりたれと
はきくつあやつれど年のたれいといふまはきふたれだ
さくくえきのせはあまふりたれい月のくくくくくく
んはすくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
てあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あゝたまふ曲む五人はほろりたまのすゝきめりたれと
はきくつあやつれど年のたれいといふまはきふたれだ
さくくえきのせはあまふりたれい月のくくくくくく
んはすくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
てあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

古備のしん

古備のしん

藤平一高

三都

發行

書肆

江戶日本橋區二丁目

同 淺草寺町三丁目

同 日本橋區二丁目

同 芝罘明前

同 廣津町二丁目

同 日本橋區二丁目

大阪公會堂前長崎公會堂前

同 京都寺町

同 京都寺町

同 京都寺町

京都寺町三丁目

須原屋茂兵衛

須原屋伊八

山城屋佐兵衛

岡田屋嘉七

和泉屋金右衛門

須原屋新兵衛

河内屋喜兵衛

秋田屋太右衛門

河内屋茂兵衛

加賀屋善藏

村上勘兵衛版

昔報

發管

三派

大德元年正月三日

四 宣平

四 宣平

四 宣平

大德元年正月三日

四 宣平

四 宣平

四 宣平

四 宣平

四 宣平

四 宣平

四 宣平

四 宣平

四 宣平

四 宣平

四 宣平

四 宣平

四 宣平

四 宣平

四 宣平

